金沢香林坊ロータリークラブ会報
KANAZAWA KOHRINBO ROTARY CLUB
https://www.kohrinbo-rc.jp
2023~2024
No.681
2023年11月27日発行

R.I 会長テーマ
「世界に希望を生み出そう」
「CREATE HOPE in the WORLD」

クラブスローガン
「もっともっと良いクラブにしましょう！
メンバーにとって、地域にとって、
他のクラブにとって」

クラブビジョン２０２２
「わたしたちは思いっきり変化を楽しみながら
チャレンジ精神にあふれた活気のあるクラブを目指し
地域と共に笑顔あふれる社会を創り出していきます」
ビジョン動画

例会日　毎月曜日 18:30～19:30　例会場　金沢東急ホテル　TEL:231-2411　　事務所　〒920-0869 金沢市上堤町 1-15 金沢上堤町ビル 3F　TEL:222-2525

◆卓話ダイジェスト◆

－１０月１６日－

「私が経験した日本と米山ＲＣ」

米山奨学生　**李　　欣　航　さん**

白山ＲＣ西野哲広カウンセラーより、現在、北陸大学経済経営学部に通っていらっしゃる李欣航（りきんこう）さんをご紹介いただき、李さんからはスライドを用いて３点（自己紹介・卒業研究とＳＤＧｓ・私とロータリー）について卓話をいただきました。

一つ目の自己紹介では中国の出身校と北陸大学について、学校の特徴やキャンパスの様子など多くの画像を通してご紹介いただき、特に北陸大学では図書館を非常に有効に活用されており、例えば１週間で日商簿記３級、１ヶ月で日商簿記２級に合格されたそうです。

二つ目の卒業研究については電気自動車の普及に関して研究をされており、ＳＤＧｓ７番「エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」と、１３番「気候変動に具体的な対策を」の視点で、大手自動車メーカーの取り組み事例を分析されたそうです。

三つ目のロータリーについては、これまでの活動をスライドの写真を順に見ながら説明いただきました。２６１０地区の米山奨学生との交流や白山ＲＣでの卓話やイベントを通して、たくさんの思い出を作られたそうで、ラフターヨガや和菓子作りの経験などが印象深かったそうです。最近では米山奨学生が集まる世界大会が筑波研究学園都市で開催され、筑波宇宙センター等の見学・世界大会の式典及び晩餐会に参加され、世界各地の学友との絆を構築し、学友たちの様々な考え方を知ることができたそうです。

－－－－－

多くの写真をスライドで見せながら、一生懸命に米山奨学生として経験したことを伝えようとする姿に心を打たれ、最後に李さんがお話されていた「写真を撮るのは記憶の手段の一つで、実際に体験したことは本物の宝物です」という言葉が印象的でした。

私たちが掲げた「クラブビジョン２０２２」も、会員の様々な想いを視覚化することによって共通認識として伝達する手段の一つです。ロータリーのビジョン声明「私たちは世界で、地域社会でそして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」の実現に貢献

（参考）ホームページ記事
「第３回米山学友による世界大会」

できるよう、クラブビジョン２０２２につながる行動・体験を通して、当クラブの宝物を増やしていきましょう！（神社）

－１１月６日－

「ロータリー財団の活動について」

国際ロータリー第２６１０地区ロータリー財団委員長　**青　山　和　也　君**

国際ロータリー２６１０地区のロータリー財団委員会に８年間在籍されていらっしゃる青山委員長から、ロータリー財団とは何かということを、丁寧な優しい口調でわかりやすくご説明いただきました。

前半は、以下のように国際ロータリーとロータリー財団の違いについて。

・ロータリーは３本柱「ロータリークラブ」「国際ロータリー」「ロータリー財団」で支えられている
・国際ロータリーには「ロータリー章典」、ロータリー財団には「ロータリー財団章典」という方針を示した憲法のようなものがある
・どちらにも「ミッションステートメント」というロータリーの使命が記載されており、国際理解／親善／平和について、国際ロータリーは「推進する」、ロータリー財団は「達成できるように支援する」と、同じ方向を向いている
・どちらにも「ビジョン声明」というロータリーのありたい姿が記載されており、どちらも同じ内容で「私たちは世界で・地域社会で・そして自分自身の中で・持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」と書かれている
・国際ロータリーとロータリー財団は役割が異なり「定義」として明記されている
・ロータリー財団の役割は「寄付の受付」「受け付けた資金の分配」
・国際ロータリーの役割は、旗振り役として「ロータリー財団の資金分配を支援」
・ロータリー財団の資金運用は、チャリティーナビゲーターという評価機関において１５年連続で最高評価

（参考）ロータリーＨＰ「ロータリーのしくみ」

後半は、ロータリー財団の資金の具体的な分配方法として「ポリオプラス（基金）」「補助金」「ロータリー平和フェローシップ」という３つの大きなプログラムについての仕組みの説明をいただきました。

また、終盤では、以下のようなインターネットを活用した仕組みについてもご紹介いただきました。
・ＭＹロータリーのホームページからの個人での寄付の仕方
・ロータリーのファンドレイジング（募金）　※８月から日本円でも利用可能

（参考）ロータリーのファンドレイジング（募金）

－－－－－

限られた時間の中でたくさんの情報を伝えていただいたため、上述の要約ではご紹介しきれない内容もたくさんありましたが、直接聞かれた方はロータリー財団について理解を深め、身近に感じられるようになったのではないでしょうか。

個人的には、終盤のインターネットを活用したロータリー財団の仕組みには非常に興味を惹かれ、「クラブビジョン２０２２アクションガイド」の「３．クラブ運営」を思い出しました。「クラブ運営における新しいシステムを積極的に導入する」と記載されており、４つの具体案にはインターネットを活用した案も含まれています。これらを実現することも重要ですが、ロータリーとしての新たな取組みを積極的に活用してみることも、アクションとして面白そうだなと考えてしまいました。（神社）

「ごあいさつ」

京都洛東ＲＣ会長　**荒　木　陽　治　氏**

１９９８年に友好クラブ締結をして今年で２６年目。遠距離交際から遠距離恋愛に発展するのかと非常に期待してくださっているとのことで、今年度の釣り同好会との交流を話題にしていただきました。持ち帰ったアカイカをワイン研究会でワインのつまみとして食べてくださったというエピソードをいただきました。

また、９月の金沢防災フェスタや１０月の世界ポリオデーの募金などに熱心に取り組んでいることへの敬意を表していただきました。

また、京都洛東ＲＣの取り組みとして「ロータリーの友１１月号」１３ページに掲載されている、台湾斗六北區ＲＣとの２年越しのグローバル補助金事業「湖山貯水池区環境保護教育プロジェクト」をご紹介いただき、今年度の桜の咲く季節には京都で友好を深めたいとお誘いをいただきました。

「クラブビジョン２０２２アクションガイド」において「2．親睦活動」に「②友好クラブとの間での交流プログラムの実施」と掲げているのを、みなさんご存じでしょうか。ご紹介いただいた釣り同好会の活動は前述の交流プログラムの一つですが、荒木会長のご挨拶から、友好クラブ側においても友好を深めるための交流を求めてくださっていることを知ることができました。荒木会長は「１人の１００歩よりも１００人の１歩が大切」ともご挨拶の中で仰られていましたが、友好クラブとの交流に限らず当クラブメンバー一人ひとりが、アクションガイドに沿った１歩を踏み出すことで少しずつ変化がうまれ、その変化を楽しみながら「クラブビジョン２０２２」が実現されていくのだろうなと「１００人の１歩」の大切さを再認識しました。（神社）

国際ロータリー第２６１０地区２０２３－２４地区大会

１０月２２日に北川会長、西川エレクト、木村副会長ほか多くのメンバーで地区大会に参加しました。

記念講演ではジャパンハート最高顧問　吉岡秀人氏の心揺すぶられる話を聞きしました。命尽きそうな子供を前にして無謀に近い日本での治療を約束してしまった話、新しい病院を設立した話とそれが日本の若い医師にとって非常に役に立っている話など、語り尽くせぬほどのストーリーでした。

また、昨日指導者育成セミナーで講演された「友好クラブ東京広尾ＲＣ」の服部陽子ＰＤＧとも記念撮影でパチリ。（フェイスブックページからの転載）

委員会ＰＲと告知「ポリオ募金のお願い」

ロータリー財団担当委員長　**末　正　哲　朗　君**

１０月２４日(火)の世界ポリオデー及び、１１月６日(月)の青山ＲＩ第２６１０地区ロータリー財団委員長の卓話の案内と共に、１１月６日から３週間に渡るポリオ募金活動の告知と募金への協力のお願いがありました。

ポリオに関する日本のこれまでの取り組みや世界の現状について説明いただき、今年の当クラブは３週間で一人３,０００円を目標とするとのことで、「自分の子供にワクチンを打ってあげるつもりで３,０００円を入れていただきたい」という言葉には心を動かされました。（神社）

第２回家庭集会

１０月３０日に金茶寮さんで第２回家庭集会が開催されました。

「クラブビジョン２０２２アクションガイド」では、「２.親睦活動」として「クラブへの帰属意識を高め、充実したロータリー活動をお送るための会員間のコミュニケーションの場を積極的に設ける。」と記載されており、家庭集会はまさにその活動の一つですね。

今回は活動報告のみとなりますが、今後の開催時には記事として掲載いたします！

次回第３回は１２月７日を予定しており、場所は今回と同様の金茶寮さん、対象者は例会委員会とと国際奉仕委員会のようですので、対象の方はぜひ積極的にご参加ください。そして、どのような活動だったのか参加者からのフィードバックもあると良いですね。（神社）

米山功労クラブ表彰

米山記念奨学会への寄付に対し、第２５回米山功労クラブとして感謝状を頂きました。

１０月度　皆出席表彰

１０月の皆出席表彰が１０月１６日（月）の例会で行われ、堀江寿郎会員（１５年）、西川雄蔵会員（１０年）、山本章博会員（１年）が表彰されました。おめでとうございます。

表敬訪問報告

友好クラブ担当委員長　**中　川　伸　明　君**

１０月１２日（木）同日開催の東京広尾ＲＣと仙台泉ＲＣへの表敬訪問の報告がありました。

東京広尾ＲＣでは、六本木タワーの最上階で開催され、北川会長が１０分ほどの英語スピーチをされたとのことでした。来年は西川エレクトが英語でスピーチをされるのか楽しみですね。

また、仙台泉ＲＣでは友好クラブ締結が来年で３０年ということで、来年は盛大に友好を祝いたいとのお言葉を頂戴したそうです。仙台泉ＲＣの会長から仙台銘菓「萩の月」を当クラブ会員にひとり一箱（５個入り）をお礼としていただいたとのことで、１０月１６日（月）の例会時に当クラブ会員に配布されました。

「交換学生お小遣い渡し」

北川会長からエミリンさんへお小遣いが渡されました。

日本に来て９ヶ月が経ち、日本語も大分わかるようになったそうで、今回は「日本のことがもっと知りたいです。皆さんはお仕事でいろいろなところに行っていると思います。わたしもぜひ一緒に連れて行ってください。それが無理なら、スーツケースの中に入れて連れて行ってください。」とジョークを交えて挨拶されていました。

米山奨学金渡し

北川会長からパクさんへ奨学金と修了証明書が渡されました。

「今月からまた半年よろしくお願いします」との冒頭の挨拶から始まり「論文だけではなく、米山の活動や学校での文化体験ツアーなど、まだ日本で体験していないことを体験していきたい」とのことでした。また「自分自身や青海省やチベット族について知りたいことがあれば、ぜひ話しかけてください」とも話されていました。

派遣交換学生レポート

当クラブから派遣している藤田笙斗（ふじたしょうと）君の８月～１０月の近況です。

学校では生徒も先生も優しく思いやりのある方々らしく、教室や廊下で気軽に声をかけてくれるので、初日から６０人近くと話ができたそうです。ダンスや歌などの発表会の見学、日本でいう中学生への日本語先生体験、スクールホリデー中のバスケットボールなど、イベント等も楽しんでいるとのことでした。

ホストファミリーには、シドニーに連れて行ってもらいオペラハウスやハーバーブリッジなどを観てきたり、別荘地で壮大な景色や夜景を楽しんできたりとオーストラリアならではの体験をしている一方で、文化の違いからのトラブルもあったようですが、最初は困惑しながらも日本人としての主張もするなど冷静に対応しているようです。

ホストＲＣとは、最初のオリエンテーションで同地区の留学生等６０名ほどが集まり、帰国スピーチを聞いたり、各国ごとに分かれてのショートコントではアジアチームとして優勝したそうです。また、例会に参加したり、バーベキューでソーセージを焼くお手伝いをしたり、タッチラグビーの試合にロータリーチームの選手として出場したりと、ＲＣの活動にも積極的に参加しているようです。

その他、湿度が低く乾燥による目や喉が渇きやすいそうですが、留学生仲間とカフェやショッピングや映画を観たりと、日常も楽しんでいるようです。肝心の英語力はと言いますと、最近はよく話をする友達の言うことはほとんど聞き取れるようになったそうですが、初めて話す人や訛りの強い人などはまだ聞き取りづらく、友達に言い換えてもらうことが多いようです。

－－－－－

上記の内容は、留学生を管理しているサイトのマンスリーレポートから原稿をまとめてみたのですが、管理サイトがあること自体も知りませんでしたし、そのサイト上の情報から、送り出し側も受け入れ側も、本当に多くの方が関わってくださっており、日常の活動をしているだけでは知り得なかった情報に触れることができました。

クラブビジョン２０２２アクションガイドでは、「１．奉仕活動　④留学生と元米山記念奨学生とのネットワークを通じた国際奉仕事業と交流の実施」と記載されていますが、事業や交流の実施を考える前に、どのような仕組みでどのような支援を受けているのかを知ることも重要ですし、そもそも彼らがどのような体験をし、どのような心の変化や学びを得ているのかなどの理解を深めることも重要なのではないかと考える良い機会となりました。（神社）